

「文理融合型実践学習システムの構築」

- ・2017年度「教育改革支援プログラム」採択事業
(実施期間:2017年7月21日～2019年3月31日)
- ・代表:浅田真一 副代表:重松亨 企画参加:齋藤聡、布川和明

事業概要

本プログラムは、理系および文系の学部/学科を設置している本学において、理系の知識を備えた文系人材の育成と、広い視野を持って社会科学領域にも関心を示す理系人材の育成につながる学習システムの構築を目指している。そこで、化学、衛生、食品、分析といった理系知識や技術を学んでいる薬学部薬学科および応用生命科学部応用生命科学科の学生と市場経済、経営といった文系知識を学んでいる応用生命科学部生命産業創造学科の学生がそれぞれの知識や技術を出し合い、協同して作業を行うことを原則として学生を募集し、「レトルト食品」を題材として実際に商品を企画、製造、販売する上での課題を発見し、協同して問題を解決する仕組みと仕掛けを実践するプログラムである。

成果概要

2学部・3学科の学生が混合でグループになって新商品案を検討し、試作と試食を繰り返してレシピを確定、工場に出向いて製造作業も行き、「トマトスープになっちゃったのっぺ」が完成。開発した商品は東京都渋谷区の「表参道・新潟館 ネスパス」にて、学生が店頭で並んで試食販売を行い、2日間で238個を販売した。4月以降も、学内の購買での販売や、イベントでの試食販売会を行っており、今後も販売場所を順次拡大する予定である。なお、本プロジェクトに参加した学生に対するアンケート調査や学修効果の確認を行った結果、参加回数が多い学生ほど学部を超えた幅広い知識を身につけており、本プロジェクトの「実践型学習」は課題発見・問題解決能力の醸成に効果的であることが示されている。